虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です

虹の架橋

第３５６号
令和７年４月１日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL ０２７７－７３－１２１２
Fax ０２７７－７０－１０６６

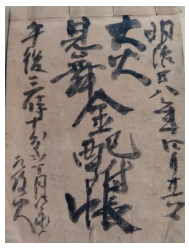
今月の題字
入船亭遊京さん
（愛媛県松山市出身）

ながめ余興場でもお馴染みの遊京さんは京都大学出身のエリート噺家。今年の秋に真打に昇進し、入船亭扇白と改名。ながめ余興場からまた真打が生れます。

大火から学ぶ「三方良し」のこころ
落語と醤油煎餅焼き体験

今から１３０年前の明治２８年４月２６日に発生した大間々の大火は、本町２丁目から出火し、役場、警察署をはじめ２５０軒以上の家屋と３９棟の土蔵が焼失した大火災でした。水が枯渇し、火が４丁目まで迫った時、近江商人の醤油醸造の岡商店は蔵にあった醤油８５石（１升瓶８５００本分）を使って火を消し止め、町の半分を救いました。岡商店では更に町に義捐金を差出し、その上、被災した２００軒以上の家々に見舞金を配ったという詳細な「大火見舞金配附帳」が残されています。

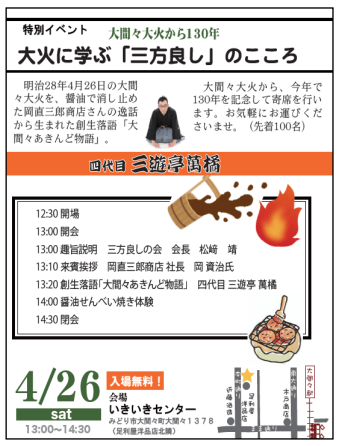
近江商人は、売り手良し、買い手良し、世間良しの『三方良し』の精神で商いを続け、この精神が大火から町の半分を救ったのだと思います。



三方良しの精神と町の歴史を後世に伝えるため、１５年前に「三方良し」の会が結成されました。

三方良しの会では、「大火に学ぶ『三方良し』のこころ」と題して、大火から１３０年目の日に記念イベントを開催いたします。

当日は、大間々の大火を題材にした創生落語「大間々あきんど物語」を真打の４代目三遊亭萬橘さんが演じ、その後に、醤油で火を消し止めた時に町中に広がった匂いを感じてもらうために、岡商店の醤油を使った「煎餅焼き体験」予定しています。楽しいイベントを通して、大切な町の歴史を学ぶイベントに是非ご参加ください。



小耳にはさんだ いい話
（文責・靖）《356》

さる二月十九日、明照学園・樹徳中学校で立志式が行われました。明照学園は大正三年設立の歴史のある学園で、中学校は二〇〇一年に開校しました。

立志式の起源は、武家社会の元服であり、十四歳の立春の日に元服式が行われていました。樹徳中学校では、開校以来毎年二月に立志式を行い、生徒一人一人が自分の将来を考え、目標や志を立てる日にしています。

立志式後の記念講演では『ゼロから一までの距離』と題して、二十八年前に大間々駅のトイレ掃除を始めたきっかけや、その後一週も途切れることなく千四百回以上続いているのは多くの人との出会いや周囲の支えのお陰であり、人に喜んでもらうことが自分の喜びであることを伝えました。

『立志式』講演の感想文

数日後、記念講演を聴いた二年生全員と、一年生、三年生代表の感想文が送られてきました。

・今までの人生が一気に変わる瞬間をゼロから一で表していると分かり、私にもその瞬間がいつか来るのだとワクワクして楽しみになりました」　二年一組　Sさん

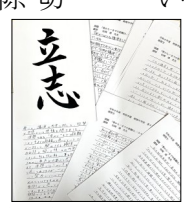
・特に勉強になったのは「大きな努力で小さな成果」という言葉です。これからは挫けそうな時も諦めず前を向いて歩いて行こうと思います。　二年一組　Tさん

・この講演で立志のことに深く考えさせられました。人との出会いと日々の積み重ねが大事だと思いました。　二年一組　Hさん

・トイレをきれいにすることで自分自身も磨かれるという言葉が印象に残りました。　二年一組　Yさん

・松﨑さんの話を聴いて、今までずっと一番私のそばにいてくれていた母の自慢の娘になれるよう頑張りたいと思います。　二年二組　Iさん

・一週も途切れず駅の掃除をする姿勢がかっこいいと思いました。　二年二組　Iさん



・自分がした努力の裏には必ずそれを支えてくれた人がいるということを忘れず努力し続けられるよう頑張ります　二年二組　Oさん

・素敵な人と出会うためには自分が素敵な人になることですね。　二年二組　Kさん

生徒さん一人一人の感想文を読んで嬉しくなり、全員にお礼状を書きました。

世界一小さな足利屋 トイレ美術館
今月の絵《356》
平田哲也さん『思い立ったら即行動』

福岡県みやま市の平田哲也さんが制作しているカレンダーには毎月、大切な気づきや共感する言葉が書かれ、かわいい絵にも癒されます。『思い立ったら即行動』の絵には、「行動を起こさない人７０％、実際に行動する人２５％、継続的に行動する人は５％、自分はどれかな」と自分自身を顧みる言葉が添えられています。「思い立ったら即行動」が大事だと分かっていても行動に移せないのは、不安や失敗を恐れる気持ちが先に立つからなのかもしれません。本当は、行動を起こすことで人生を変えるような出会いが待っていることもあるのです。

靖ちゃん日記

令和七年三月十七日（月）

大相撲春場所のダイジェストを観るため毎朝二時半にテレビをつける。日の丸が映り、君が代が流れてNHKの放送が始まる。顔を洗い、体重を量ってからテレビの前に座る。体温を測り、血圧を測るのが一日の日課のはじまりになっている。

昨日は春場所の中日。二十代前半の若手力士が台頭している中で、初土俵から連続出場最高記録更新中の四十歳の玉鷲や三十五歳の高安や三十一歳の沖縄出身の美ノ海（ちゅらのうみ）が上位で頑張っている。観ているだけで力が入り、血圧が上がってしまう。高安はインタビューで「今が一番楽しくてやりがいがある。お客さんに喜んでもらえる相撲をとりたい」と言っていた。

我家でも孫の琉馬が台頭してきている。腕相撲や指相撲では勝てなくなり、上手のるたは全敗、駆け足は「転ぶからやめとき」と相手にされず不戦敗が続いている。口数でも負けて、勝てるのは年の数だけになった。

シャッター街に新たな灯り朧月

かつて賑わった大間々の商店街もシャッター街になってしまいましたが最近になって若い人たちが大間々の文化や歴史に魅力を感じ、古い商店などをリノベーションしてカフェや物販のお店をつくる動きが出始めました。地ビールや北欧風のスイーツやオシャレでヘルシーなお弁当などを日替わりで提供する複合施設Haji-Maru（ハジマル）は足利屋から５軒南で活動が始まりそうです。

今まで暗かった商店街に小さな灯りが灯っているだけで、春のしっとりとした朧月のように温かい気持ちにさせてもらえます。

虹の架橋 ⇑ 検索 で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百五十七号は令和七年五月一日（木）発行予定です。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん